

# JCWA

## NEWSLETTER

### Vol.02

発行/編集制作 一般社団法人日本カーラッピング協会 広報部  
〒101-0047 東京都千代田区内神田3-2-1 喜助内神田3丁目ビル402号 FAX: 03-6206-4986

日本カーラッピング協会 会報誌  
[ JCWAニュースレター ]  
2024年11月発行



“海外トップレベル” が席卷

# World Wrap Masters JAPAN 2024

WWM FINAL2023

## 王者に栄冠

Simon Manley Jokumsen

### C O N T E N T S

#### [特集] 第4回 World Wrap Masters JAPAN 2024

- ◎現地レポート ◎Pick UP! 海外選手&海外事情
- ◎日本人最上位岡部氏インタビュー

#### ▶ [NEW&売れ筋!] 注目のプロツール

- ▶ [理事からのメッセージ] #2 山口孝一副会長 (ラッピング部会長)
- #3 井上徳広副会長 (カラーPPF部会長)

#### ▶ [イベントレポート] SEMA2024 現地レポート

[現地レポート]

# World Wrap Masters JAPAN 2024

会期：9月11～13日  
東京ビッグサイト  
@サイン&ディスプレイショウ2024



デンマークから参戦したサイモン選手 (WWM FINAL2023 チャンピオン)



追加募集の末に 48 人が参加した今大会。多くのプロがサイモン選手の施工に鋭い視線を投げかけた

## 世界王者参戦に PPF 混合 混迷極めた WWM 2024

JCWA では 9 月 11～13 日、サイン&ディスプレイショウ 2024 会場内で「World Wrap Masters JAPAN 2024 (WWM JAPAN)」を開催しました。エントリー開始から数時間で全ての出場枠が埋まり、最終的に追加募集、海外出場枠を含めた 48 人が出場。3 日間・5 ラウンド (全 8 種目) で争われ、デンマークから参戦した Simon Manley Jokumsen (サイモン) 選手が優勝しました。

サイモン選手は 2023 年の WWM デンマーク、WWM FINAL の優勝者。決勝戦は WRAP GEAR (LAPPS 講師 / 2 位) 岡部和彦選手、G-Meister 川上裕貴選手 (3 位)、リンダファクトリー林田優希選手 (4 位) と、過去のラッピング大会で好成績を収めている強豪日本人選手と争われ、名実ともに世界王者であるサイモン選手がその実力を発揮した結果となりました。

WWM は印刷関連の国際的な業界団体 FESPA 主催の競技大会で、日本版開催は 4 度目。優勝者は各地区での優勝者で争われる WWM FINAL への出場権が与え

られます。過去の日本大会は川上選手が 3 連覇しており、サイモン選手と川上選手は FINAL 2023 で世界王者の座をかけて戦ったこともあります。この 2 人が激戦を繰り広げたこと、またその川上選手を押しさえ岡部選手が準優勝に輝いたことなど、川上選手の独壇場だったこれまでの WWM JAPAN よりも一層、レベルの上があったまさに「世界トップレベルの技能競争が繰り広げられた大会」となったのではないのでしょうか。

- ・ PICK UP 海外選手 → P4
- ・ 岡部選手インタビュー → P5

## 世界の潮流踏まえた クリア・カラー PPF の導入

海外選手の活躍に加え、「ペイントプロテクションフィルム (PPF) の競技採用」も今大会に波乱をもたらした大きなトピックスの1つです。従来カーラッピングの技能大会では、カラーチェンジ/インクジェットメディアの2タイプはあったものの、塩化ビニル (PVC) 素材のフィルムのみが対象でした。今大会では、この2タイプに加え、ポリウレタン (TPU) 素材の PPF を導入。これもクリア/カラー

の2タイプが導入され、選手は大きく4タイプのフィルムを適切に扱う術が求められるようになりました。これは PPF の製品供給・市場の拡大に伴い海外の技能大会でもトレンドとなっています。

選手には事前に告知されていましたが、業態・環境によっては日常業務での PPF の取り扱いが少ない選手も少なくなかったと思われます。ですが、PPF の普及が進み需要が高まる市場を踏まえると、今後自動車フィルム施工業を営む上で「1つの選択肢として施工者がカバーしておきたいアイテム」になってきているとも見えています。

実際、今大会を機に PPF への取組強化を検討する選手の声や、塩ビ素材とは一線を画すカラー PPF の光沢感・機能性を評価する見方も数多く聞こえてきました。

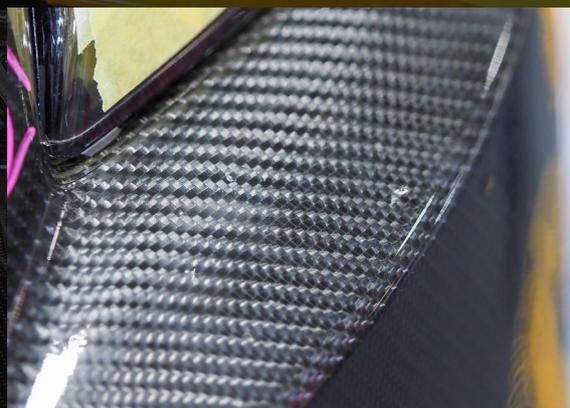


Pick Up!  
1

## 面のキレイさで注目集めたカラー PPF ウェット/ドライなど素材の違いは要吟味!

今回の競技で出場選手から高い評価を寄せられたのがカラー PPF 種目で採用された NAKDA のカラー PPF。中継配信のカメラでもその美しさにたびたびフォーカスが当てられ、優勝したサイモン選手も「グロス感が美しく、柔らかくとても扱いやすい。欧州で流通している他メーカー品のカラー PPF よりも良質に感じた。自国に帰ってからも使いたい」と、仕上がり・施工性の両面で高く評価しました。

ただ事業導入にあたっては、競技と同じような迅速な貼り方でサービス提供できるかは注意が必要なところです。競技では厳しい制限時間をクリアするために乾燥時間が不要となるドライ施工を多くの選手が選択。一方で日本総代理店 NKD JAPAN では、公式な施工方法として水・施工液を使うウェット施工を推奨しています。これはカラー PPF の魅力の1つである面のキレイさに関わるポイント。フィルム面がキレイな程ゴミ噛みが目立つ傾向にあり、ウェット施工はゴミ噛みをできる限り抑制して面のキレイさを最大限に発揮する手段で、同社の施工者向けセミナーでは



十分な水 (コンプレッサー式エアガンまで) を使ったの施工が披露されました。実際に競技での仕上がりでも一定のゴミ噛みが視認され、実サービスでの提供品質とは異なる水準であることも窺えます。

現在販売されているカラー PPF は NKODA 同様ウェット型が主流。ですが、例えば FlexiShield ではドライ施工用に設計開発された、接着面にエアチャンネルを備えるカラー PPF を販売中 (80色超のラインナップ)。また同社以外にも中国メーカー製品が日本上陸していたり、9月には米国 3M も新製品 (26色) を公表したりと、競技さながら“水・乾燥時間要らず”のドライ型カラー PPF も増えつつあります。これは、これまでドライ施工が主で、設備増強が難しいラッピング施工者にとっては朗報かもしれません。

WWM JAPAN を1つの契機に、カーラッピングの選択肢の1つとして一躍存在感を高めたカラー PPF。設備環境・作業形態や技術の熟練度・好み、顧客層を踏まえ、自社・ニーズに応じたフィルム選びが肝要です。



# 海外選手に学ぶ施工マインド

優勝したサイモン選手を筆頭に大きな存在感を放った海外選手たち。

技術はもとより、日本とは異なるビジネス性や競技マインドも明かしてくれました。



## 施工はライフワーク？ 競技への高い意欲 デンマーク・サイモン選手／アメリカ・エリカ選手の場合

優勝したサイモン選手をはじめ海外の施工者に少し話を聞くと、日本とはまた異なる施工環境が窺えました。その1つがカーラッピングの普及度合いです。

普段の業務の大半がラッピング（カラーチェンジとフリート）というサイモン選手は、「自国に自動車メーカーがなく車両が高価で、PPFはごく一部の富裕層のためのサービス」といいます。むしろラッピングは、「税金が優遇されていてEV車が人気だが、オプション設定が少ない。そんなEV車を中心に個性を出す術として一般的に親しまれている」そうで、その話ぶりからは日本よりもカラーチェンジが市民権を得ている様子が窺えます。

また、カーラッピング先進国のアメリカから来日参戦した若手女性施工者のエリカ選手も、普段の施工はラッピングがメインで、カラーPPFは現地でも材料費的に高価でまだニーズも取り扱い実績もわずかだそうです。そのカラーチェンジが親しまれている土壌もあってか、2人とも今大会を通じてカラーPPFに特に強く興味を示し、「カラーPPFは将来もっと有名になると思う」（エリカ選手）との見解を示しました。

加えてもう1つ印象的だったのが、競技参戦への心構えです。世界王者の称号を勝ち取っても戦い続けるサイモン選手。その心のうちを聞くと、「私にとって競技大会はスポーツで、1度の優勝で終わるものではない。休日もするくらいラッピング施工が好きで、もしPPFが普及するならスポーツとしてそれも極めたい。それを勉強・追求するのも楽しい」と返してくれました。

また独立して2年とまだ若手施工者のエリカ選手も、国内外の競技大会に積極的に参加しているようで、「アメリカで活躍する女性をリプレゼン（象徴する）意味で楽しい」と明かしてくれたその胸中。2人にとっては、フィルム施工が「仕事の枠を超えた存在」となっていることが伝わってきました。

日本では叫ばれて久しいコンプラ徹底や働き方改革などもあり、従業員へのそうした“心構え”の共有も一筋縄ではいかない昨今。ですが、技術職である以上、トップに上り詰める領域では、「仕事という枠組み・ワークライフバランス」といったものを度外視した、職人気質とも呼ぶような追求し続けるスリットイックな心構えは不可欠なかもしれません。



△アメリカのエリカ (Erika Gare) 選手。塗装への傷入力でR2敗退となってしまったが、初日 (3種目合計) のR1はフリップ選手、川上選手に続く3位の好成績で、大会MVP賞も受賞した

△JCWAの大会恒例の初日夜の懇親会にも参加。▷競技中、同業プロの眼差しを集め続けたサイモン選手。スマホ撮影を続ける人も少なくなかった



△台湾から参加の若手インストーラーのグァンシン (HE GUAN-XIAN) 選手。  
▷同じく台湾のイェン (Ying Yen HSU) 選手。2人とも3種目合計のR1、2日目のR2を勝ち抜いたがR3で敗れた



△デンマークから参戦のフィリップ (Filip Sørensen) 選手。惜しくもR3で敗退したものの48人参加の初日 (3種目合計) はトップ通過。クリエイティブ種目の高い獨創性でも注目を集めた

# Special Interview

## 日本人最上位！ マルチに貼り業を営む 熟練の業界開拓者

### Q.“打倒国内王者”を実現されましたね！

ありがとうございます。準優勝という結果でしたが、自分の中では「あの場で持てるモノ・できるコトを全てを出し切った」という感覚で悔いはないです。ちなみに周りの人からは「打倒川上でしょ？」と言われることもあるのですが、自分の中では特別その意識が強いわけでもなかったり…笑。でも競技に参加して以降、何連覇も果たす彼を目標にしてきたので、それも含めてやり切れた、嬉しかったと思えた大会でした。

### Q.大会の決勝常連というイメージがありますが改めてご経歴を教えてください

大会に関していうと、2021年の第1回日本カーラッピング選手権までは審査員を務めていて、WWM JAPAN2022から選手として参加（22年：2位／23年：6位）しています。

業務では、カーラッピングに携わり始めたのは2010年頃から。元々その前から建築内装の化粧フィルムや商用車などへのフリーターマーキングも手掛けていたので、貼り業歴では25年程。当時はマーキングフィルムしかなく、3Mの自動車用フィルムが登場した10年頃を機にその時の在籍企業の方針でカーラッピングに触り始めました。以降、在籍企業と付き合いのあったLAPPSと一緒に試行錯誤を重ねながらカーラッピング施工に従事し、独立後もLAPPSで施工させていただいています。

またメインはLAPPSでの施工ですが、夜間や土日などの合間で屋外広告の作業もしています。依頼を断りづらいのもありますが、細かな品質・気配りが求められるカーラッピングに対し、大きなサイズを取り扱う駅や屋外の広告は気分転換になる部分も。カーラッピングを含めた施工技術の面でも、様々な素材フィルムを扱う経験が生きているとも思っています。

### Q.講師も務められているんですね？

LAPPSでの3Mカーラッピング講習の講師を務めています。過去に教えた人が大会で奮闘する姿を見ると嬉しいですね。

とはいえ、自身のラッピング施工も決して完成したモノとは思っておらず、「どうやったらキレイに貼れるだろう」と常々新し



WWM JAPAN 2024 準優勝 岡部 和彦 氏

2018年に独立し、カーラッピングやフリーター、屋外広告など幅広くフィルム施工を手掛けるWRAP GEARを営む。普段はLAPPS (YMG1) で施工やラッピング講習の講師も務めている。現在44歳（大会出場時）

い貼り方を考えています。講習で未経験の方に教えている時でも、フィルムに触ったことない人ならではの発想に驚かされる・学ぶことはありますし、他のショップに施工しに行く際も同様です。元々負けず嫌いで、内装フィルムの頃から周りの同僚や先輩を見て「今日はこの人より早く貼ろう」「誰よりも多く貼ろう」などと勝手に自分の中で目標を立てて取り組んでいました笑。

### Q.今後の展望は？

まずは、ラッピング協会に入会（準会員）します笑。これまで大会に出ていただいていたのですが、実はまだ会員ではないので…。ラッピングの認知拡大に少しでも何か手伝えることがあればと思っています。そして、今回サイモン氏が優勝の副賞（欧州への渡航費）を譲ってくれました。せっかくいただいたチャンスなので、来年5月開催のWWMヨーロッパ（ドイツ開催）に参戦してきます！

また、これは少し先の話になりますが、将来的に自分のショップを開きたいです。前述の通り講師の仕事もやりがいがありますが、元々口下手で、何より貼ること・技術を探求することが好きで楽しいですからね。実はこれまで、乾くまで仕上がりが決まりづらく水貼りが嫌いでした。ですが今回WWMでもたくさん触らせてもらったようにカラーも含めてプロテクションフィルムが増えてきているので、今後はそっちの施工にももっと取り組んでいきたいと思っています。



厳しい制限時間の競技でも、パネル接合部でカットせず、全てを貼り切る岡部氏。採点に繋がらずとも実サービス基準の施工に努める職人気質・誇りが垣間見える

# NEWTTOOLS for PRO

[注目のプロツール]

賛助会員 掲載は会員No.順

## ▶インクジェットプリンター

### CJV200 Series



ミマキエンジニアリング

操作経験が少ないオペレーターでも美しく・速く・簡単にプリント成果物を制作することができるプリント&カット対応エコソルベントインクジェットプリンター。同社のフラグシッププリンタに搭載される「330エンジン」プリントヘッドをシングル搭載。

▶[公式サイト](#)

## ▶ラッピングフィルム

### Satin Chromeタイプ (VCH417 - 423S)



高品質かつお手頃な価格でトップレベルの仕上がりを実現するTeckWrapカーラッピングフィルム!

人気のサテッククロムシリーズに2024年の新色VCH417~423-Sが登場です。

サイズ: 60インチ (約1520mm) × 18m

ロール販売 / 1m単位切売

TeckWrap LA

▶[販売サイト](#)

## ▶ウィンドウプロテクションフィルム (WPF)



### EPU Windshield Protection Film

PPFのバイオニアであるXPELから待望のフロントガラス保護用フィルムが遂にリリース。熱成型の必要がないTPU素材で、DAPIによるプレカットも可能なため、PETタイプに比べて施工時間が大幅に短縮。厚み200μmの柔軟なフィルム材により、顧客の愛車のフロントガラスを飛び石などによるひび割れから守ります。

XPEL JAPAN

▶[公式サイト](#)

## ▶カラープロテクションフィルム (カラーPPF)

### コスメティックPPF



ドライ貼りカラーPPFとして21年の登場以降、世界中で多くの施工実績を重ねる本製品。マットブラックやホワイトなど使いやすい新色も続々追加され、現在のラインナップは80色以上! セロから学べる技術講習も実施していて、HPにはラッピング施工者の受講の様子が掲載中です!

FlexiShield JAPAN

▶[公式サイト](#)

## ▶自動車ボディ用保護フィルム

### PGF series



スミロン

「お預かりした自動車を傷付けたくない」。そんなお悩みを解決する表面保護フィルム「PGF series」の紹介です。国内外の自動車メーカー、部品メーカーで採用されている実績の高いテープで、作業時のキズや異物の付着からボディを守り、最後はきれいに剥離することができます。

▶[公式サイト](#)

## ▶ラッピングフィルム

### Lustre Wrapping Film



ニチエ

キャスト塩ビ仕様のメタリックフィルム。今までにないスムーズマットの質感を持ち、上質なメタリック感を演出します。粘着はリポジショナル・エアフリー糊 (白色再剥離糊) を採用しており、エア抜け抜群です。

サイズ: 1520mm×16m/ロール、1m単位の切売  
カラー: 全11色 耐候性: 約5年

▶[公式サイト](#)

## ▶ラッピングフィルム

### ORACAL 970RA



オラフォルジャパン

ORACAL 970RAは多層プレミアムキャスト製法で製造されているカーラッピングフィルムで、最高レベルの寸法安定性・耐久性と塗装並みの質感を持ち合わせています。塗装と見間違えほどの光沢感、しっとりとしたマット感が、目の肥えたカーオーナーから支持されています。

▶[公式サイト](#)

## ▶ペイントプロテクションフィルム (PPF)

### スコッチガード™ PPF プロシリーズ 200 マット



スリーエムジャパン

飛び石や擦り傷、汚れなどから塗装表面を守るプロシリーズに待望のマットタイプがついに登場。美しい艶消し感を持った200マットは、糊ずれのしにくさや位置合わせのしやすさ、高い曲面追従性はプロシリーズの特性を持ちつつ、落ち着いたマット感のある仕上がりを実現できます。72インチ (1829mm) 幅もラインアップ!

▶[公式サイト](#)

## ▶大判プリンター

### HP Latex プリンターシリーズ



日本HP

無臭のHP Latexプリンターは水性でありながら屋外耐候性があり、粘着剤に影響を及ぼさないため、世界のカーラッピングプレイヤーに愛用されています。ホワイトインクも3M™ MCS™ 保証プログラムに対応。2024年にはフェラーリとHPのタイアップパートナー契約を発表しました。

▶[公式サイト](#)

## ▶カラープロテクションフィルム (カラーPPF)

### カラーPPF カーボン



NKODA

WWM JAPAN 2024で使用されたカラーPPFカーボンが12月に新発売。NKODAの生産技術を最大限に活かした工法を用いることで、深みがあり、より本物のカーボンへ近づけることに成功しました。耐擦傷性、自己修復性、防汚性などPPFの定番保護機能も付与されています。購入・お問合せは正規代理店ソフト99オートサービスまたは同社直営オンラインショップまで。

NKD JAPAN

▶[公式サイト](#)

## ▶ペイントプロテクションフィルム (PPF)

### HTM-40 (マット/グロス)



LEGEND

クリア (グロス/マット)、カラーに続く、「スモークをボディに」というPPF第3の貼り方。可視光線透過率 (VLT) 40%のヘッドライト用スモークをボディに貼れる60インチでお届け。グロスに加えてマットスモークも新登場し、塗装色を残しつつイメチェンを楽しむ「遊び心あるPPF」を提案できます。購入・お問合せはP-Factoryまで。

LEGEND JAPAN

▶[販売サイト](#)

## #02 | 山口孝二ラッピング部会長

# 施工者不足解消が拡大の鍵 PPFに負けない潜在需要



協会発足以降、大会や講習を通じて施工者育成に取り組んでいる当部会。近年では大会実況で親しみいただいている方も多いかもかもしれませんが、1期目から務めている部会長として改めて、現在の市場性や展望を踏まえた部会の方針をお届けします。

弊社 (G-Meister) 事業の変遷を踏まえても、2005年頃から徐々に普及し始めた個人カーオーナー向けのラッピング。10年代後半には富裕層の需要一巡やPPFの台頭を受け、こと国内でのラッピング市場の伸びは落ち着いてきたように見受けられます。

ただ、つい先日もとあるガソリンスタンドのCMで「有名女優がコーティングとラッピングを勘違いする演出」を見ましたが、依然国内でのラッピングの認知は高くありません。その大きな要因の1つが「貼り手が少ないゆえに高止まりする施工価格」。大手企業と規模の大きいミドルクラスを対象としたビジネスの話が挙がっても、幾度もこの壁に

直面し頓挫してきました。裏を返せば、「貼れる施工者」が増えれば市場の成長余地もまだまだ小さくないと見ています。

とはいえ、車両の高性能化・電子化をはじめ、フィルムが品質向上したがゆえに施工の粗が目につきやすくなったり、普及とともに顧客の要求も細かくなってきたりと、一定に普及したからこそ“きっちり貼れる”のレベルが上がってきているのも事実です。

部会では引き続き「講習」「大会」の2つを柱に、高いレベルの施工者の育成・輩出、さらには市場拡大に寄与していきたいと考えています。施工の世界への入り口となる講習は、幅広い製品サプライヤーとも連携して随時内容をアップデート。参加者が増えてきた大会も、1社の人数制限や地区予選などを目下検討中で、今後はより多くの新規プレイヤーが挑戦できる環境を整えるとともに、「実力者が名前を売る」、ひいては「仕事に繋がる機会」となるよう企画・運営して参ります。

## #03 | 井上徳広カラー PPF 部会長

# 世界的な開発競争の先端素材 需要創造に繋がる施工術を



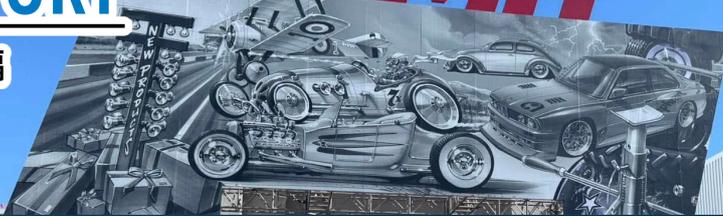
2024年6月、当協会4つ目の部会「カラーPPF部会」が発足。WPF部会長を務めさせていただいた私が部会長を拝命しました。本誌でもWWMやSEMAの記事の通りここ数年、ラッピング、PPFに続き「色を変えながら守る」カラーPPFが世界的に注目されています。

一方で、様々なメーカーや施工現場との情報交換、また自社 (P-Factory) での施工経験などを踏まえ、取り扱う上で注意すべき点も浮かび上がってきています。基材がTPU (特殊ポリウレタン) なので、塩化ビニルのラッピングのようにポストヒーティングは活用できません。またクリアPPFとも異なり、下地をしっかりと隠す仕上がりが不可欠。またメーカー・製品により、柔軟性や接着性の違いはもとより、ドライ/ウェット施工も混在しています。特に高価格帯なサービスとなるカラーPPFでは、これら基礎的なポイントをはじめ素材特性を十分に把握して施工することが大切でしょう。多くのラッピング施工者がご

理解の通り、不適切な貼り方・情報発信は顧客のクレーム、ひいては業界全体のイメージ低下に繋がりがかねません。

今後、日本でも一層注目が高まるとともに、様々なメーカーが参入し、また施工現場では色々な貼り方も施工錯誤されることが想定されます。当協会では、フィルムメーカーとも連携を図りながらそのトレンドをしっかりと押さえ、講習などを通じて常に先端の材料、施工方法を共有。PPFだけでなくラッピング (色変え) の分野にもしっかりと浸透するよう、施工品質の底上げに貢献していきたいと考えています。

ラッピング・クリアPPFのどちらも異なるカラーPPF。ですが、その施工技術は両者に通ずる部分もあり、また新素材ゆえに新たなビジネスチャンスとも捉えています。特別な1ジャンルではなく自動車フィルムの一環として、またカーオーナーへの新たな選択肢として、プロ施工者の皆様と一緒に市場形成していけるよう努めて参ります。



## オートアフタービジネスの、 そしてフィルム施工ビジネスの最先端

SEMAショー 2024  
アメリカ・ラスベガス 11月5～8日

今年も11月の第1週に世界最大級のオートアフターマーケットの展示会「SEMA Show (SEMA ショー)」が開催されました。今回、当協会では7人の理事が現地を訪問。ラッピング&プロテクションフィルムを中心に、フィルム資材の先端情報と、フィルム施工の先進国であるアメリカ現地の「施工ビジネスの温度感」を直接その目で視察してきました(※渡航・視察は各参加者の自費で、協会としての視察ではありません)。

SEMA ショーは1967年にスタートし、50回以上の歴史を誇る老舗の展示会。カスタムカーの祭典としても知られていますが、主催のSEMAは「Specialty Equipment Market Association (米国自動車用品工業会)」の略称で、カスタム・チューニングパーツのみならずレストアやリペア(钣金、整備など)、タイヤやホイール、工具、オフロード系、EV、ECなどのビジネスサービスとあらゆるジャンルが対象となっています。

また、毎年14万人以上が参加する規模を誇りながら、例えば東京オートサロンなどは異なり、自動車ビジネスに携わる業界関係者のみが入場できるBtoB展示会というのも1つの特徴。例年バラエティに富んだパーツや資材・機器、自動車などのメーカー・サプライヤーら2400社以上が出展し、一般にお披露目される前の“世界最先端のオートアフタービジネス”に出会える貴重な機会となっているのです。



米国の大手有名メーカーをはじめ数多くのフィルムブランドが出展。特に見た目のインパクトが大きいカラーPPFの展示が多かった印象で、また韓国や中国などアジア関連のブランドも多く目に留まった



フィルム自体もさることながら、プリンターメーカーやラッピング・PPFとの親和性が高いコーティング剤など、フィルムビジネスの周辺情報も豊富



元々カスタムカーと親和性の高いカーラッピング。カーケアエアアやフィルム関連ブースにとどまらず、SEMA会場のありとあらゆるところに展示されていた



アメリカの大手3社「ビッグ3」の姿は見えなくなったが、代わりにトヨタや北米日産、起亜などアジアの自動車メーカーが積極的に参画する近年のSEMAショー

## 米国、世界でも勢いづくカラーPPF

当協会メンバーの主な視察目標はもちろんラッピング& PPF。SEMA 会場内では、西ホールにある「Restyling & Car Care Services」コーナーに関連ブースが集まり、日本でも馴染み深い大手メーカーからアメリカ以外の新興ブランドまで一堂に並んでいました。

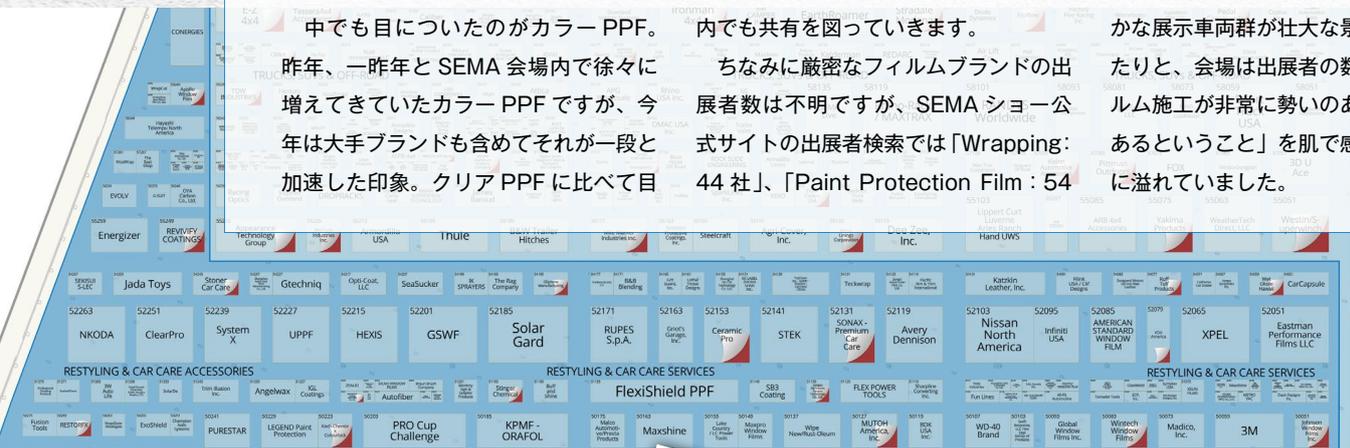
中でも目についたのがカラー PPF。昨年、一昨年と SEMA 会場内で徐々に増えてきていたカラー PPF ですが、今年は大手ブランドも含めてそれが一段と加速した印象。クリア PPF に比べて目

で変化を訴えやすいという展示側の思惑を差し引いても、開発競争が盛んである様子が窺えました。訪問メンバーには日本で総代理店や販売元を担う立場もいて、積極的にこれら先端フィルム資材の情報を収集。今後、新設したカラー PPF 部会やその講習などを通じ、協会内でも共有を図っていきます。

ちなみに厳密なフィルムブランドの出展者数は不明ですが、SEMA ショー公式サイトの出展者検索では「Wrapping: 44 社」、「Paint Protection Film: 54

社」のヒット。約 2400 の全出展に対しては多くないとも見えます。

ですが、例えば賛助会員では XPEL や OLAFOL、3M、FlexiShield、NKODA などが大規模なブースを展開していたこと、また各ブースでは施工実演・競技が盛り上がっていたり、色鮮やかな展示車両群が壮大な景色を見せていたり、会場は出展者の数以上に「フィルム施工が非常に勢いのあるビジネスであるということ」を肌で感じられる熱気に溢れていました。



◀大手/新興、米国/海外問わずフィルムブランドのブースがずらっと並んだ西ホール (画像出典: SEMA SHOW 2024 公式ウェブサイト)



## 販売者ではなく 施工者でも行く価値アリ!

今回 SEMA ショーを訪問した協会員はフィルム販売者だけではありません。各出展者ブースでは趣向をこらした実演企画が催されているのも SEMA ショーの特徴で、フィルム施工者にとっても多くを学べる機会となっています。

特に象徴的なのが競技コンテスト。日本では当協会主催の競技大会がありますが、そのミニチュア版が各フィルムブランドのブースで開催されているイメージです。規模こそミニ版といえど、そこに

集うのはフィルム先進国アメリカの業界関係者(プロ)。世界の先端ともいえる施工技術を間近で見ることができ、また多くはその場で参加可能なので、挑戦心1つで腕試しをすることもできます。また日本未輸入品も含めて各ブランドのフィルムを一挙に試せるため、自社の施工で使うフィルムの見直しを図る、自社での輸入販売を検討する、など事業展開を模索する機会にもなりえるでしょう。

フィルム販売をしていない・予定がな

い施工者でも貴重な経験を得られる SEMA ショー。一方で、入場事前登録(事業を営んでいること、またはその従業員であることの証明が必須)は年々厳しくなっている印象も。当協会では、具体的な施策は未定ですが、来年以降は渡航・入場を希望する協会のサポートも検討中ですので、「ぜひフィルムビジネスの先端を肌で感じてみたい」という方は協会理事にお気軽にご相談ください。

会期中至る所で行われていた施工実演 △▷コンテストも多く、苅谷会長と井上理事はチームでHEXISの競技に参戦。エイブリー・デニソンプールのラップバトルでは苅谷会長が2位に輝いた

# JCWA

JAPAN CAR WRAPPING ASSOCIATION

広報部へのご要望は

下記メールアドレスまでお寄せください。

◎掲載記事へのご意見・ご感想 ◎広告掲載のお問い合わせ etc.

一般社団法人日本カーラッピング協会 広報部

E-mail : info@jcwa.gr.jp

# あなたの仕事を楽しくするツールが揃っています カーラッピング用品専門プロショップ



カーラッピング  
ペイントプロテクションフィルム  
ウインドプロテクションフィルム

施工ツールはもちろん  
フィルム資材についても  
お気軽にご相談ください！

- 施工ツールカタログ無料配布中！
- 施工業者向け業販登録店様 随時募集中！
- 販売代理店様 随時募集中！

登録希望の業者様はお気軽にお問い合わせくださいませ。

E mail:info-ppf@designlab.co.jp TEL:0586-89-4341

オンラインショップへ  
スマホでアクセス！



- ・ラッピングの新たな武器にドライ型カラー PPF を追加！
- ・塩ビとは違う素材特性・貼り方が理屈でわかりました。

問合せが多い WPF。失敗・ロスが多かったけど  
その理由がわかって苦手意識もなくなりました！

- ・悶々と抱えていた PPF 施工の課題がクリアになりました。
- ・一連の手順が目から鱗。仕上がりの基準も明確になった！
- ・PPF 選手権で前回より良い結果を残せました。
- ・FlexiShield 認定受領！ 実務も明白に品質向上できました。

実績・理屈に裏打ちされた  
施工専門店 P-Factory の技術講習

## プロテクション施工のお悩み解消します。

未経験の入門としても  
経験者のスキルアップでも！

受講者に応じた  
個別トレーニング

グロス・マット/カラー PPF /  
ウインドウプロテクション/ラッピング…

メーカー・ブランド問わず  
あらゆるフィルムが対象

材料フィルム支給  
宿泊施設 無料付帯  
講習後も継続フォロー

3日間 30万円 (税別) ~



P-Factory



LEGEND®

フレックスシールド 講習



P-Factory  
事業者様向け  
ご案内

まずはお気軽にご相談ください  
※講習は原則、弊社推奨メーカー・フィルムを  
使用しますが、ご要望に応じ幅広く対応します

有限会社いのうえ

〒243-0307

神奈川県愛甲郡愛川町半原3871-2

TEL.046-211-5121

# Wrapmania

## TOOL & EQUIPMENT

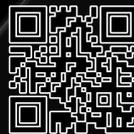
粘着フィルム販売・施工ツール・印刷・製作加工

# 業販登録者募集中

登録フォームはコチラ 

*DFC QUEST*

VERY USEFUL  
VARIOUS SOCIAL NETWORKS  
FOLLOW US ON



*- Rinda Factory -*  
*Vinyl Wrap Design*

make a car as an artist.



# “車”の美容室

CAR BEAUTY SALON

WWW.RINDAFACTORY.COM



@rinda\_f

カーラッピング&  
プロテクションフィルム専門店  
**ラプラスデザイン**

大胆にイメージチェンジ！  
色褪せならインジキリ施工！

プリンター新機種導入！  
大きな車面も巻き目無しで施工可能に。

姿を隠せない車のボディガード！  
無色透明のプロテクションフィルム

当店オリジナルデザインの  
[LDカーボンメタリックグロス]

Before

After

時代は  
「塗る」から「貼る」へ

カーラッピング&プロテクションフィルム

Film Installation



SEARCH  GO

TEL 024-926-0978



所在地 福島県郡山市菜根 2-9-8  
E mail wrap@laplus.design  
営業時間 9:00 ~ 18:00  
定休日 火曜日  
U R L https://laplus.design

古物商許可 第251080004232号  
LINE y.t.lidl  
Instagram laplus\_design  
Twitter @LapulusDesign  
Facebook Laplus Design

3M 4-star 認定インストーラー  
CWI 認定インストーラー  
XPPEL 認定施工店



ラジオ福島  
★ 静御前通り

内環状線  
■ 下田ヒフ科 医院  
■ 福島銀行  
■ ヨーク ベニマル



3M 製フィルム 特約販売代理店

LAPPSはあなたのパートナーです

LAPPSのサービス



商品

3M商品の在庫確保と  
社内検品で高品質を  
提供。



サポート

累計参加者1000名以上！  
定期講習会を開催。  
講習会後のフォローと、  
技術・ビジネス支援カリ  
キュラムの提供。



普及活動

業界の最新情報を収集  
し、発信。  
業界全体の発展を目指  
します。



東京都墨田区  
カーラッピングセンター



3M™ラップフィルムシリーズ2080  
スコッチガード™ペイントプロテクションフィルム  
その他カーラッピングフィルム・備品等取り扱いあり！

法人向けに業販登録受付中！

詳細はコチラ



ご登録で、業販価格での販売、定期的なキャン  
ペーン情報や新製品のご案内をお届けします。



株式会社ワイエムジーワン

事業本部・カーラッピングセンター  
〒130-0003 墨田区横川1-1-10すみだパークプレイスII  
TEL 03-3635-1266  
https://lapps.jp/  
https://www.yamaga-net.co.jp/

LAPPS  
LUXURY AUTOCARE  
PROGRESSIVE PLUS STYLE



午前中の注文でその日に発送!!

# REAL CARBON WRAPPING FILM

評判の人気商品! プロも認めるリアルな仕上がり!!

独自のデータ技術を駆使し、これまでにないリアル感を追求。

カーボンパターンも2種類用意し、純正カーボンパーツに対応。

デジタルインクジェットメディア AVERY DENNISON MPH1105 スーパーキャストEZRSを使用。

貼り易さもさることながら、他にはないリアルな質感が最高の仕上がりを実現します。



リアルカーボン ラッピングフィルム

左から マット(粗目)、グロス(粗目)、マット(細目)、グロス(細目)

スペック | フィルム幅 / 1480mm×~5m ※切売りOK  
フィルム糊 / エアフリータイプ・長期再剥離

業販可!!

〈定価〉1m × 1480mm 15,000円

商品の詳細や業販のご相談など、下記までお気軽にお問合せください!!



ご希望の方全員にサンプルを無料配布!! (10×10cm)

← QRコードを読み込み メール作成 をクリック! 必要事項を入力の上メールを送信してください。



〒253-0101 神奈川県高座郡寒川町倉見1755-1

ヤマックス株式会社 G-meister 事業部

TEL. 0466-21-8900 FAX. 0467-37-9210

WEBからカンタン注文!!  
<http://www.g-meister.net>



# JCWA NEWSLETTER

## 掲載広告 募集中

- ✔ 年3回発行! ※予定
- ✔ 70社超の協会員に配布
- ✔ 単号からご出稿できます  
複数号掲載割引もご用意!

料金など詳細は事務局まで  
お問い合わせください。

一般社団法人日本カーラッピング協会 事務局  
E-mail : [info@jcwa.gr.jp](mailto:info@jcwa.gr.jp)  
TEL : 03-6277-3291